

## 平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	06	項	01	目	03
事務事業名	都市農村交流促進事業								
担当部署	農林商工部農林振興課	0503000	電話	0187-63-1111			内線	242	

## ◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	03:活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり
	施策の大綱	01:農林水産業の振興
	施策	04:農村環境の整備
	施策の内容	02:都市と農村の交流促進
根拠法令等		

## ◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	地域資源を活かしながら都市住民と地域住民による交流活動を通じ、地域農業の理解と地域活性化を図る。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	受入農家、農家民宿、都会の中学校・高校生、都市住民、消費者
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①首都圏大曲会への参画(都市住民と地域住民との交流)(大曲ほか) ②農業体験受入体制の拡大と実践者との交流会の開催 ③秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会への参画 ④都内中学校農作業体験学習受入、都内中学校訪問交流事業(神岡ほか) ⑤修学旅行受入による都市と農村の交流事業(中仙ほか) ⑥南外産米穀、野菜の販路拡大のためのスーパーでの販売キャンペーンや、取引生協の研修会、生協組合員との交流会(南外)
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	都市と農村の交流活動を通じ、魅力的な「地域づくり」に取組、地域経済の活性化につながる。都市の消費者が農村の食材生産地域を訪れることにより、消費動向や消費者ニーズを把握することができ、農業生産計画の見直しに効果がある。蓄積された交流が受入農家に新鮮な意欲を生み出す。

## ◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 受入農家	人	39	42	46
	② 体験受入に係る地域協議会	団体	3	3	3
	③ 大仙市都市農村交流推進協議会	団体			1
成果 (事業の成果を測る)	① 農業体験受入人数	人	564	1,072	1,200
	② 農家民宿経営希望者	人	1	2	4
	③				
投入コスト	決算額		1,122千円	1,027千円	651千円
		一般財源	1,122千円	1,027千円	651千円
	人件費		3,568千円	3,524千円	3,566千円
		一般職員の年間従事人数	0.5人	0.5人	0.5人
		一般職員以外の年間従事人数			
	総コスト	(決算額+人件費)	4,690千円	4,551千円	4,217千円

事業を取り巻く環境	都市と農村交流事業は秋田県でも積極的に推進してきており、都市部からの注目も年々増加している。しかしながら、実際に受け入れる農家は農業情勢の悪化、複合経営化、兼業化が進み繁忙に追われていることもあり、受入農家の必要数を確保するのが容易でない。米価下落、振興作物の市場の競争が激化する中、生産者が安心して栽培に取り組めるよう首都圏をはじめとする生協、消費者等への宣伝活動、産地売り込みが期待されている。
-----------	---

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	近年、食育活動の一環として、グリーンツーリズムが脚光を浴び、益々事業の必要性が高まってきていることから、大仙市都市農村交流協議会を設立し、グリーン・ツーリズム活動を推進する必要がある。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	大仙市都市農村交流協議会を設立し、宿泊受入農家の拡大と協議会の受入調整機能を強化し、交流人口を拡大する必要がある。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	農業に関する体験メニューを充実強化するとともに、受入農家の拡大とスキルアップのためのコストであり、当面人員配置や予算の継続は必要である。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	改善策	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
改善	A 現状のまま継続	受入農家の掘り起こしにより人数を確保するとともに、各地区で活動している組織との連携を図るために平成23年度内にモデル事業を実施し、受入体制を強化する。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	
	F 終了	